



それはまるで、犬の子供たちが、じゃれあって遊んでいるようでした。お互いに追い回したり、乗りかかったりして、仲良く遊んでいます。かわいいですね。

でも、よく見ると、耳はツツと立っているし、時々こちらを見る目が鋭いのです。やっぱりこれは、犬ではなくて、狐の子供たちなのです。

自宅近くに、狐がいるよ、との話を聞きました。

そこで、朝早く起きて、河原沿いの遊歩道に出かけてみたのです。すると、散歩中の人何人が脚を留めていて、河原の方を見下ろしています。そう、ほんの30メートルぐらい先の草原で、この狐の子供たちが4匹、遊んでいたのです。

狐は用心深いので、人前には、姿を見せないものだと思っていました。広い河川敷とはいえ、すぐそばに住宅が広がっているような場所で、このような姿を見られるのは、驚きました。

時々、親狐がやってきて、餌のようなものを置いていきます。それを取り合っている姿は、なんとも、微笑ましいものです。

近くに岩の重なり合った場所があり、そこに穴があるようで、陽が差してくるようになると、その中に潜ってしまうようです。だから、この狐の子供たちを見るためには、朝の五時前に起きて、河原に出かけなくてははいけません。時として、姿の見えないこともあり

ます。でも、それが日課になりました。

さて、そんな風に河川敷を散歩していると、様々な生き物がいることに気づきます。ちょうど若葉の色濃くなる季節で、生き生きとした空気に溢れているのです。

飛び回る鳥たちの、種類の多いこと。写真に撮ろうと思うのですが、彼らは、なかなかじっとしてくれません。ムクドリ、ヒヨドリ、そして、ホオジロなどが目につきました。鳴き声は汚いのですが、青い羽の綺麗な、オナガなども見かけました。

この土手沿いの遊歩道には、朝から、沢山の人が歩いていました。片道1.6キロのコースになっていて、それぞれのペースで、往復されています。

まだ雪の残る鹿島槍岳を遠くに望み、鳥たちのさえずりを聴きながら、ニセアカシアの白い花の咲きこぼれる道を歩くのは、本当に気持ちの良いものでした。

こんな時間を楽しめたのは、新型コロナウイルスによる影響を受けたからです。

4月の中旬から、5月いっぱいまで、店を休ませていただきました。

長野の街に人通りはまばらで、ゴールデンウィークなのに、人の姿のない善光寺を、初めて見ました。こういうことが、現実だということが、受け入れられない気持ちでした。

このような病気に蝕まれて、世の中は、一体どうなるのだろう

か。漠然とした不安に包まれたまま、一ヶ月余りを過ごすことになったのです。

そのときに、救いになったのが、この狐の親子たちの姿を見ることでした。河川敷の木々や鳥達の、生命力溢れる空気に触れることでした。

大きな自然の流れの中には、様々な出来事があるはずですが、この問題が収まるまで、おそらく、かなりの時間のかかることでしょう。それまで、心を太くして、乗り切っていこうと思ったのです。



今年は、いつもより雨の多い梅雨でした。七月の初めに、大雨が降り、河川敷はごうごうと流れる水に溢れました。

狐の子供達がいた穴も、キジが巣を作っていた草むらも、水に流されてしまいました。

店を再開して、河原を歩くこともなくなった私は、その後の彼らの姿を見ていません。でも、きっとどこかで、元気に走り回っていることと思います。

そう、信じています。